

1 基本情報

施策名	2 - 1 「魅せる農」のまちづくり				戦略名	みどり活用プロジェクト			
担当	主担当部	市民環境経済部	主担当課	産業振興課					
	部長名	岡田 光一	関係課						

2 取組目標 (Plan)

取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ●農業をまちの活性化のための資源として積極的に支援し、産業が連携する活力あるまちづくりを進めます。 ●農の持つ多様な機能を活かして、白井市のイメージを魅力的にアピールするため、子どもから高齢者までが農を体感できる取り組みやにぎわいづくりを進めます。
------	---

3 平成31年度取組状況 (Do①)

取組1 多様な形態の農業経営と担い手の支援

取組方針	集落で農業生産を共同で行うしくみづくりを進めます。また、市民団体等と協働し、援農ボランティアや新規就農を育成するための講習会を開催するなど、農業の担い手づくりを進めます。					
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・営農活動を継続させるための方策の一つとして、市内1地区で開催した人・農地プランの地域座談会において、集落営農について説明を行った。 ・老木化した梨の木の改植を促進するため、市の補助により梨業組合が開設した育苗センターにおいて、ポット苗1,600本を栽培し、うち1,441本を販売した。 ・農業の担い手を発掘・育成するため、市内に研修ほ場を持つ民間農業スクール運営事業者との連携により新規就農ステップアップ講座を開催した。 					
構成事業	事業No	事業名	評価	事業No	事業名	評価
	22	集落営農の組織化等支援事業	廃止(令和2年度)	25	援農ボランティア育成・就農支援事業	改善して継続
	23	育苗センター事業	改善して継続			

取組2 農商工の連携による、農産物の高付加価値化やブランド化

取組方針	農家や多様な事業者が連携することで、付加価値の高い農産物の開発や販売ルートの確保を進めます。					
取組内容	<p>「しろいの梨」のブランド化に向けて、市場や伊達市「だてな太鼓まつり」でのPR、試食会の開催、上野駅構内でのPR、しろいの梨ブランド化推進計画の推進、柏レイソルしろいホームタウンデーでのPR、しろいの梨ポータルサイトでの情報発信、マスコミ取材対応等を実施した。</p> <p>また、「しろいの自然薯」のブランド化に向けて、東京駅隣接商業施設キッテ、千葉県アンテナショップへの出展PR、JA直売所の販売促進イベントへの出展等に対する支援等を行った。</p>					
構成事業	事業No	事業名	評価	事業No	事業名	評価
	26	農産物ブランド化推進事業	改善して継続			

取組3 駅周辺や地域における農産物の販売の場づくり

取組方針	共同直売所の運営支援や各経営にあった流通・販売ルートを確認します。					
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・駅、公共施設、ホームページにおいて農産物直売所マップを配布し、直売所のPRを行った。 ・健康課の「しろい食育サポート店」事業と連携し、地産地消応援店舗のポスター、のぼり旗、ミニのぼり旗を白井産野菜を取り扱っているスーパー、飲食店等に配布した。 ・新規市内商業施設の開店に合わせて白井産農産物の取扱いが開始された。 					
構成事業	事業No	事業名	評価	事業No	事業名	評価
	28	農産物流通販売拡大事業	改善して継続			

取組4 だれもが農業体験できるプログラムの実施や農に親しめる環境づくり

取組方針	農家等と連携して、市民農園・体験型農園の開設を支援し、農にふれる場づくりを進めます。					
取組内容	市民農園や体験農園の開設についてホームページによる周知及び開設手続きのサポートを行った。					
構成事業	事業No	事業名	評価	事業No	事業名	評価
	29	市民農園・体験型農園設立支援事業	改善して継続			

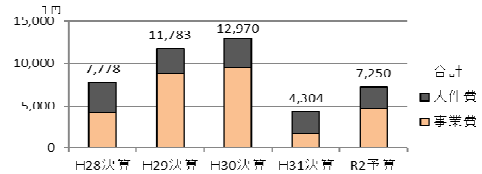
4 施策展開の状況 (Do②)

改善した取組	<ul style="list-style-type: none"> ・民間農業スクールの知見や手法を活用した講座開催や就農希望者と農地のマッチングを図るなどの連携を進めた。 ・直売所マップを活用し、白井産農産物の消費者PR、販売振興を図った。 ・産業振興ネットワーク会議において農商工連携、地域資源活用による産業振興策について意見交換を行った。
他分野・他施策との連携	農産物流通販売拡大事業に係る地産地消応援店舗のPR実施に当たり、健康課が実施する「食からの健康づくり支援事業」に係るしろい食育サポート店事業と啓発方法の検討や店舗情報の共有などの連携を図った。 農商工の連携により、流通販売拡大へ向け、取扱店舗を開拓した。

5 施策推進コスト(Do③)

(千円、%)

	H28決算	H29決算	H30決算	H31決算	R2予算
事業費	4,129	8,843	9,460	1,646	4,670
人件費	3,649	2,940	3,510	2,658	2,580
合計	7,778	11,783	12,970	4,304	7,250
プロジェクト内割合	43.0	53.2	54.2	30.0	43.3



6 1次評価(Check①&Action①)

	施策指標名	単位	基準値/基準年度	目標値		実績値				
				R2年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	
定量的評価	農地に占める遊休農地の割合	%	8.4 (H27)	3.5	6.9	15.3	15.4	15.8		
	新規就農者数(計画期間中の累計)	人	-	5	5	8	12	14		
	農地面積	ha	1,295 (H27)	1,295	1,295	1,295	1233	1230		
	梨農業者数	人	162 (H27)	160	160	159	158	156		
	地場産農産物を積極的に購入する市民の割合	%	-	48.0	38.2	50.0	32.7	39.7		
	農業に関心を持つ市民の割合	%	-	63.0	55.9	53.7	69.1	53.4		

定性的評価

農業を通じた産業活性化及び白井市の魅力のアピールには中長期的な取組が必要である。平成31年度は、農業の担い手の発掘・育成に向けて新規就農者支援に重点を置いた講座を開催した。しかし、集落営農については、ほ場条件等の営農環境が未整備であることなどから各地域での意見交換において組織化の機運が高まりを見せていない。

農産物の高付加価値化・ブランド化、販売の場づくりについては、梨や自然薯をはじめとした農産物のPR及びやおばあくの移動販売の支援、地場産農産物の販売場所の拡大等によりブランド化及び販路拡大を推進した。

進捗状況

- 順調
- おおむね順調
- やや遅れている
- 遅れている

課題

喫緊の課題

特産の梨の改植などの生産基盤の確立のための支援や農産物の販路拡大のための支援を行い、農業者の所得向上を図る必要がある。

また、農業者の高齢化及び後継者不足に対応するため、新規就農者及び後継者の育成など担い手の確保及び農地集積を推進する必要がある。

中長期的な課題

農産物の国内外におけるブランド化の推進及び販路拡大により農業を魅力ある産業として発展させ、効率的かつ安定的な農業経営体の育成・確保を図る必要がある。また、農業の多面的機能(生物多様性保全、景観の保全、洪水・土砂流出防止等)の発揮による白井市のイメージアップのため、ほ場整備等を通じて生産基盤となる農地の保全、遊休農地化の抑制を図る。

施策の方向性(改善策)

短期的な方向性

市内外における農産物のPRを通じて販売促進を図るとともに、市内外小売店・飲食店における市内産農産物の取り扱い拡大により販路拡大を図る。

また、担い手の育成・農地集積の推進に向けて、各地域での話し合いを通じ、各地域の農業の特性や農業者のニーズを踏まえた支援を実施する。

中長期的な方向性

農商工連携やしろいの梨ブランド化推進計画に基づく農産物のブランド化を推進し、農産物の売上向上・販路拡大を継続的に支援することにより、更なる農業者の所得向上を図る。

また、農業の持続的発展のため、担い手の育成・発掘や農地の基盤整備の実施及び担い手への集積、市民農園開設の支援等により農業経営の継続及び農地の有効活用を図る。

施策を取り巻く環境の変化

農業者の高齢化や後継者不足により遊休農地及び地権者が貸借を希望する農地が増加傾向にある中、新規作目の産地化を目指す農業法人や新規の認定農業者・認定就農者等の担い手農業者への農地集積が一部では進んでいるが、市内全体では未だに担い手への集積は不十分である。また、遊休農地解消の方策の一つとなる集落営農については、地域における組織化の機運が醸成されていない。

ブランド力のある農産物や新鮮な地場産農産物に対する消費者ニーズがある中で農産物の高付加価値化やブランド化、市内産農産物の販路拡大及び生産者の売上向上が求められている。

市民と行政の役割分担・協働

行政の役割を拡大 現在の行政と市民の役割分担・協働を維持 市民の役割・協働を拡大

農業者育成の専門的知見を持つ民間農業スクールと連携して就農希望者のニーズに合った講座開催、スクール卒業生の就農希望者に経営農地の斡旋等を実施し、新規参入者の拡大を図る。

7 2次評価(Check②&Action②)

白井市行政評価委員会による評価

- ・長期的視点で、農業者と意見交換しながら、新規就農者や後継者の育成に取り組むこと。
- ・農業者の高齢化、担い手不足が予想される中で、今後の白井の農業の方向性・ビジョンの具体化を図ること。
- ・しろいの梨ブランド化推進計画に基づき梨のブランド化を積極的に進めること。
- ・梨以外の市内産農産物のブランド化を進めること。
- ・遊休農地の貸し借りや売買などの制度の啓発に努め、遊休農地の流動化を促進すること。
- ・農商工連携を推進し、地産地消、市内の販売先の拡大など地域経済の循環を促進するとともに、市外の販売の場の充実にも努めること。

8 3次評価(Check③&Action③)

総合計画審議会による評価

Blank area for evaluation content.

9 3次評価の改善意見等への対応

Blank area for response to improvement suggestions.